



教員養成の歩みを通して 未来を創るかけがえのない子供たちのために

会長 松澤勇治

「みんなの学校(まなびや)」
教育史編さんと学校アーカイブズ
「これは、埼玉県立文書館が、
令和六年六月一日から九月一日ま
で開催した企画展のタイトルで、
お出かけになられた方も多かつた
ものと思われます。

アーカイブズとは「記録資料」
のことです。昨年、近代的な学
校制度を定めた学制の施行から
百五十年目を迎え、さらに本年、
教員を養成するための学校である
埼玉県師範学校(現・埼玉大学教
育学部)の設置から百五十年を迎
える節目となるこの機会に、江戸
時代から戦後にかけての埼玉にお
ける学校教育に注目し、県民が学
び舎で、何をどのように学んでき
たのかが分かるよう、所蔵の資料
や解説のパネル、映像等で紹介さ
れていました。

私が一番関心を持ったのは、や
はり、本県における教員養成に関
する資料でした。明治六年に改正
局を設けて教員養成を始め、翌年
には埼玉県師範学校と改称、同九
年には、熊谷県廃止により、同じ

く教員養成を行っていた暢発(ち
ようはつ) 学校を分校としました。
埼玉新聞に、七月三十一日から八
月二十八日まで五回に分けて、こ
の企画展の内容について当館担当
者が文章を載せています。同校の
校則と寄宿舎の舎則について、次
のような興味深い内容が記されて
いました。

校則の冒頭には、人としてあ
るべき姿を示すために正しい行
動をし、礼儀を尽くして軽薄に
ならず、他人と関わる時は約束
を守り、義務を果たすことが当
然であると記されています。ま
た舎則には、部屋を念入りに掃
除して清潔にすべきと書かれて
います。指導に従わない者や怠
惰な者は退学にするという定め
でした。

教員は、人びとの手本となる
よう育てられていたことがうか
がえます。

初代文部大臣であった森有礼は、
公教育形成の要(かなめ)は、教

員の資質にあるとして、師範学校
の整備に力を注ぎました。そして、
明治十九年に公布された師範学校
令の第一条に、「生徒ヲシテ順良
信愛威重ノ氣質ヲ備ヘシムルコト
ニ注目スヘキモノトス」という但
し書きを付けました。この「順良
信愛威重」は、後の師範教育令に
より「徳性」と表現され、我が国
教員に必要な資質と見なされてま
した。師範学校では、この気質育成
のために、全員寄宿舎制の下、軍
隊式教育や訓練が導入されたと言
われています。

戦後の教育改革は、これまでの
師範学校の果たした役割を認めつ
つも、専門的な教員養成機関とし
て、新制大学の発足や教育職員免
許法によって、抜本的に改革され
ました。そして、望ましい教員の
資質や大学での教員養成の在り方
については、時代の経過とともに
様々な議論や制度改革がなされ、
今日に至っています。

「子供は国の宝、未来を創るか
けがえのない存在」であり、変化
の激しい社会をたくましく生き抜

く子供を育む力量のある質の高い
教師を養成するのが教育学部です。
家庭環境、生育歴、親子関係など
それぞれ異なる子供たちとの運命
的な出会いがあり、学校という限
られた空間・時間の中で、教師は
一人一人の子供の成長・発達に向
けて最善を尽くします。

本学部で学び、これまで子供の
重要な人的環境としての役割を自
覚し、教育的愛情に基づく信頼関
係の中で教職の道を精励してきた
者の一人として、教員養成に特化
した本学部の更なる発展を願って
やみません。

おわりに、本年度末をもって、
会長職を退任させていただきます。
二期四年間(副会長職を含めま
すと八年間)、事務局の移転や業務改
善の視点からの各種事業の見直し
(寄付講座の発展的解消に伴う模擬
個人面接の充実、会報「教友」と
「学友」の合本化及びホームページ
における全面公開に向けた取組等)
も、皆様のご理解・ご協力のおか
げで推進することができました。

今後、本会が、教育学部同窓
会として、これまで以上に学部と
の連携・強化を図りながら、会員
相互の親睦が一層深められますよ
う、会の益々の発展をご祈念申し
上げます。大変お世話になり、あ
りがとうございました。

(昭和五十年卒)